

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

令和3年8月20日
東村山市議会議長 あて

議席番号 8番
質問者 横尾たかお

記

1. 高齢者にも便利な街に（スマートシティ）！

当市でも、マイナンバーカードの普及やワクチン接種予約、PAYPAY キャンペーンなどを通して電子的な手続きが増えてきている。今後も更に進んでいくことを多いに望んでいる。そこで忘れてはならないのが、高齢者への配慮であると考え。いわゆるデジタルデバインドである。スマートシティのさらなる推進と、それに伴って加速するデジタルデバインドにどのように対応していくかが重要であると考え、以下質問する。

(1) 高齢者のデジタル格差を解消せよ

- 1 スマートシティを進める目的、公民連携も視野に入れた取り組みへの考え方について伺う
- 2 SDGs の観点から、高齢者や障がいを持つ方などの、デジタルデバインドについて、現状把握の必要性や市の認識を伺う
- 3 都の補助金などを活用し、民間のスマートフォンキャリアによる講習会などを行うことや、実証実験のデモ環境を通じ、行政がデジタルデバインド解消のきっかけを提供するなどが重要と考えられる。また LINE のような幅広く使われているものを活用してのきっかけ作りをどう考えているか伺う
- 4 デジタルデバインドへの配慮や取り組みを進めるにあたり、市のリソース不足などの課題はあるか、その課題を乗り越えるためには何が必要か伺う
- 5 スマートシティの取り組みを進めるにあたり、「エストニア」など先進的な国の事例等あるが、ベッドタウンである東村山市が先進的に取り組み、市民生活に密着したデジタル化のメリットを示していくことで、さらなる取組の推進につながるのではないかと。スマートシティのメリットを示す効果をどのように考えているか伺う
- 6 「ひがしむらやまのみらいを考えるスマートシティ出張講座」の内容と効果をどう考えているか。また、デジタルデバインドの解消にもつながっていくと考えるとよいか伺う。

- 7 デジタルデバイド対応やスマートシティの推進からリソースを生み出していくこと、また、LINEの導入など、総括して市長に伺う。

2. 歩道の補修計画で安全安心な街へ！

近年、市内の生活道路の補修や都市計画道路整備も予算の増額も含め着実に進んできている。一方で、道路整備が一定されて以来手つかずになっているのが、歩道である。高齢化が進む中、杖やシルバーカーを押しながら買い物に行かれる方をよく目にする。子育て中のお母さん達は、歩道がある道を選び移動されている。車いすで移動する方は当然のこと、歩道を選び進んでいく。SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」・東村山市総合計画「まちの価値の向上」施策4の観点からも歩道の補修・整備は重要課題であると考え、以下伺う。

(1) 弱者目線で整備を急げ！

- 1 市内の歩道の総延長を伺う。
- 2 歩道の補修について、現状での考え方を伺う。
- 3 市民から歩道の補修要望などはどの程度あるか。特に車いすの方や高齢者など、特に移動に対して脆弱な立場の方からの意見はいかがか。
- 4 インターロッキング仕上げ歩道の補修の際に課題になっていることはないか、伺う。
- 5 今後整備が予定されている、都市計画道路で歩道部分がインターロッキング仕上げになっている路線はあるか、伺う。
- 6 計画的に歩道の補修をしていくべきと考えるがいかがか？
- 7 総括として、市長の歩道補修についての見解を伺う。